

平成二十一年五月七日提出  
質問第三七〇号

政府見解と異なる北方領土問題の解決方法について言及した政府代表に対する外務大臣の対応  
等に関する再質問主意書

提出者 鈴木宗男

政府見解と異なる北方領土問題の解決方法について言及した政府代表に対する外務大臣の対応  
等に関する再質問主意書

本年四月十七日の毎日新聞に、谷内正太郎政府代表が毎日新聞社のインタビューを受け、北方領土問題につき、「三島と択捉一部でも」と、谷内代表として、歯舞、色丹、国後、択捉の我が国への帰属を確認し、ロシアとの平和条約を締結するという従来の政府方針と異なり、北方四島の面積を折半するという方法をもって、同問題の最終的解決を目指すべきという見解を示したと報じた記事（以下、「毎日記事」という。）が掲載されている。右について谷内代表は、例えば同日付産経新聞報道等で、「毎日記事」にある様な、北方四島の面積分割をもって最終的な北方領土問題の解決とすべきという趣旨の発言はしておらず、「毎日記事」はねつ造である旨発言している。しかし、中曽根弘文外務大臣は、本年四月二十日、訪米中の谷内代表に電話をし、「結果として誤解を与えたことは遺憾」と、谷内代表を嚴重注意したと承知する。右と「前回答弁書」（内閣衆質一七一第三三一号）を踏まえ、再質問する。

一 中曽根大臣は本年四月二十日の衆議院決算行政監視委員会第一分科会において、「まず報告は、これは谷崎局長から報告を受けているところでございます」、「責任ある外務省の者がまず本人から話を聞いて

いるわけでありまして、私自身も、それは電話で済むかもしれませんが。しかし、本人とよく話をして聞いてみないと、この新聞記事、これについていろいろ違いといえますか、解釈の違いですか、あるようございますから、その点は、私は会って話をお聞きしたいということなのです。それも、何も一週間後とかそういうことじゃない、もう間もなく戻ってくる。日程は存じ上げておりませんが、できるだけ早く、そういう気持ちでございます。」と答弁していた。前回質問主意書で、中曾根大臣は同月二十一日午後、米国から帰国した谷内代表に直接会い、「毎日記事」にある谷内代表の発言に関して確認を行ったか、行ったのなら、何日に、どこで、誰の立ち会いの下確認を行ったのかと問うたところ、「前回答弁書」では「平成二十一年四月二十日の衆議院決算行政監視委員会第一分科会終了後、中曾根弘文外務大臣から谷内正太郎政府代表に対して、同政府代表の帰国を待つことなく直接電話にて事実関係を確認したところ、同政府代表から、御指摘の記事において引用されているような『個人的には三・五島返還でもいいのではないかと考えている。』といった発言は行っていないが、全体の発言の流れの中で誤解を与え得る発言があったかもしれない、結果として関係者に誤解を与えてしまったことは遺憾である旨の説明があった。」との答弁がなされているだけで、中曾根大臣が谷内代表に直接会い、確認を行っているのか否かが

明らかにされていない。中曽根大臣として、谷内代表が帰国した後、同代表に直接会い、「毎日記事」にある同代表の発言について確認をしているか否か、明確にされたい。

二 一で、中曽根大臣として谷内代表に直接会い、確認をしていないのなら、それはなぜか。中曽根大臣の認識が、一の分科会における答弁にあるものからなぜ変わったのか、明確に説明されたい。

三 一で、中曽根大臣として谷内代表に直接会い、確認をしていないのなら、今後それを行う考えがあるのか、それとも、中曽根大臣として同代表に直接会い、確認をする考え自体を有していないのか、明確にされたい。

右質問する。